

139

新たに考案せる細菌顆粒染色法に就て

山中 太木

(大阪高等醫學専門學校微生物學教室)

細菌の極小體染出に就ては、曩にニールブラウ生體染色に於て速報するところがあつた。ここにはナイセル極小體染色法とは異なる簡易迅速な手技に就て余の考案を述べる。

1. 蒸溜水を用ゐてガラス面に材料塗抹乾燥，特に固定を要せず。
2. 山中氏染色液（液狀石炭酸 5.0，蒸溜水 90.0，グリセリン 5.0，フクシン原液 5.0）を滿載 30 秒。
3. 水洗。
4. 2%マラヒットグリューン水溶液 40-60 秒。（肉眼的赤色消失し標本面青くなるまで）
5. 水洗，乾燥，鏡檢。

この染色法によれば極小體は赤紫色に濃染し，菌體は鮮かな青綠色に染着する。これは従來のナイセル染色法に比して簡易明快で，マラヒットグリューンの應用が極めて良好な顆粒證明を達成する。芽胞染色に於ける余の考案もまた全くこれに因ることは曩に本誌に速報した通りである。ここに重ねてフクシンとマラヒットグリューンの併合染色が驚くべき効果を擧ぐることに各位の注意を喚起したい。

（受附：昭和 17 年 4 月 30 日）

[醫學と生物學・第 1 卷・第 10 號・頁 480・昭和 17 年 5 月 20 日]